

映画*The Wizard of Oz*を用いた実践英語教育
—台詞から仮定法を教える方法を巡って—

野中美賀子*

**Practical English Teaching Using the Movie *The Wizard of Oz*
: Teaching the Subjunctive from Dialogues**

Mikako NONAKA

Summary

Scholars, over the years, have been interested in researching on the movie *The Wizard of Oz* (1939), adapted from Lyman Frank Baum's *The Wonderful of Wizard of Oz* (1900). They have often adopted literary or economical perspectives; however, little research has been conducted from the English educational standpoint. Carreira Matsuzaki Junko asked groups of students to compose questions about *The Wizard of Oz* during their classes, which resulted in an increase in the students' independence and motivation to learn the language. This paper tries to assess the practicality of using the movie to teach English, where teaching exercises were carried out in two English Communication I classes each for 23 second-grade students and 11 third-grade students that attended a private high school correspondence course in the Kansai area. This paper focuses on the subjunctive mood using "If" and American society as the background of this movie, to analyze the questionnaires completed by the students and assess the effectiveness of this teaching method in motivating students to learn the language.

Key words: 英語教育、The Wizard of Oz、仮定法、If、アメリカ社会

はじめに

これまで英語教育における映画の活用について、角山照彦の『映画を教材とした英語教育に関する研究』（2008）、磐崎弘貞他12人の『映画英語教育のすすめ』（1995）、中谷安男と八尋春海の『映画英語教育論』（2003）にあるように、英語教授法、異文化、英語学、授業評価の視点から多角的に研究がされている。

本稿で取り上げる映画*The Wizard of Oz* (1939)（以下『オズの魔法使い』）の原作小説*The Wonderful of Wizard of Oz* (1900) は、Lyman Frank Baumが著し、W. W. Denslowが挿絵を担当した児童文学作品である。アメリカ合衆国イリノイ州シカゴのジョージ・M・ヒル・カンパニーから初版が出版され、以降何度も再版された。凝った構成によるカラー図版の児童書は、当時としては革新的であり増刷の追いつかない人気作品となり、アメリカで最も優れ最も愛されているおとぎ話という位置づけが

* 高知工業高等専門学校 ソーシャルデザイン工学科 講師

されている。ボームはOzシリーズを13冊書き、他の作家がその後を継いだ。筆者は、出版されて以降100年以上もの間、大人と子供に魅力的なこのアメリカの児童文学作品をいつか授業で取り上げたいと筆者はこれまで考えてきた。本小説は登場人物が限られ、かつ単純なストーリーのため、高校生にも理解できると考えた。少女Dorothyが、異世界に迷い込んだので家に戻るために、そこで知り合った仲間と共に、全員の願いを叶えてくれるオズ国に住む魔法使いに会うために冒険をする話である。また映画『オズの魔法使い』の主題歌“Over the Rainbow”（「虹の彼方へ」）（1939）はJudy Garlandが歌い、¹ 1939年のアカデミー歌曲賞を受賞している。この歌はアメリカ国民だけでなく世界的にも知名度が高く、多くの人に愛唱されてきた。

『オズの魔法使い』を用いた先行研究においては、文学的視点から、木村恵子がこの映画を少女の通過儀礼の旅と捉え、² 吉田久美はこの映画にボームの新しい子供観を見い出している。³ また経済学的視点から、川端壽はこの映画で米国の通貨政策がどのように表れているのかを論じる。⁴ しかし、この映画を用いた実践的な英語教育学的研究はわずかである。カレイラ松崎順子は、学生がグループで協力しながら映画『オズの魔法使い』の問題作成を行い、学生自身が授業を行う活動を行った。その結果、学生は、この映画を取り入れた授業を楽しくやりがいがあり、満足感を感じ自信がついたと評価した。⁵

そのため本稿は、本映画を授業で英語教材として取り上げ、英語教育にいかにより有用であるのかを考察することを目的とする。本授業のテーマは、映画に現れた仮定法とアメリカ社会である。本映画の物語には夢や願いを語る会話が顕著に多く、その会話では実現不可能あるいは実現可能な願望を表現するのに仮定法が頻繁に用いられる。そのため本作品における注目すべき文法事項として、仮定法を授業で取り上げた。また現実的視点から本作品への興味を喚起させるために、映画の背景知識として本小説作品が創作された19世紀後半のアメリカ社会が部分的に映画に投影されていることを説明し、架空の小説世界と現実世界との繋がりを持たせることを試みた。

授業実践は、2019年7月に関西の私立高校において2年生23人、3年生11人を対象にスクーリングの「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業において行った。1回の授業は45分間で、アンケートは各授業直後に教室内で実施した。授業は3回連続もので本授業は第3回にあたる。第1回、第2回のテーマは、それぞれ主題歌「虹の彼方へ」と、本映画のキャラクターやあらすじとDVD映画視聴であった。⁶

なお本稿でのテキストの下線は筆者のものである。

1. 『オズの魔法使い』で使用される仮定法現在と仮定法過去

授業では、本作品の映画台本をテキストにして仮定法の表現を抽出し、パワーポイントを用いて

¹ 作詞はYip Harburg、作曲はHarold Arlenが担当した。

² 木村恵子、「1939 Film Version of *The Wizard of Oz*: A Girl's Initiation Trip」『学習院女子大学紀要』第17号（2015）35-46.

³ 吉田久美、「ボームのおとぎ話にみる新しい子ども観—『オズの魔法使い』から—」『帝京大学教育学部紀要』第6号（2018）97-104.

⁴ 川端壽、「『オズの魔法使い』と米国の通貨政策」『亜細亜大学経済学紀要』第37号（2013）1-21.

⁵ カレイラ松崎順子、「学生の自律性を高める大学の英語の授業：映画『オズの魔法使い』の問題作成」『映画英語教育研究紀要』第17号（2012）33-42.

⁶ 第1回と第2回の授業については「映画*The Wizard of Oz*を用いた実践英語教育」『映像メディア英語教育研究』Vol.27（2022）pp.17-30をご参照ください。本稿は継続研究として第3回授業を取り上げ分析考察した。本論の作品はPaul Rudoff, *The Wizard of Oz - Movie Script*. 1939. <[https://wvesmrsmith.weebly.com/uploads/2/4/2/0/24206076/the_wizard_of_oz_\(play\).pdf](https://wvesmrsmith.weebly.com/uploads/2/4/2/0/24206076/the_wizard_of_oz_(play).pdf)>から引用した。

説明した。取り上げた場面は5つあり、それぞれ、ガルチ婦人と養母エムのやり取り、案山子とドロシーの歌、放浪者達の歌、案山子とブリキの木こりの歌、ドロシーとライオンのやり取りを中心に授業を展開した。これらを授業で用いることで、会話からミュージカルパートに至るまで多様な英語表現を通して、生徒は仮定法の具体的な使い方を学ぶことが出来る。授業において、生徒には下記の全ての引用台詞を両面印刷したB4プリント2枚を資料として配布し、場面ごとに5つに区切って映画を映写した。そしてその場面ごとの映画映写のすぐ後に、パワーポイントを映写し、講義形式で説明を行った。

1.1 ガルチ婦人と養母エムの台詞

ガルチ婦人はドロシーの飼い犬トトに足を噛まれたため、トトを保安官のところへ連れて行き処分すると言う。それを聞いたドロシーは養父母のヘンリーとエムに助けをもとめる。そしてガルチ婦人は次のように言う。

MISS GULCH: If you don't hand over that dog, I'll bring a damage suit that'll take your whole farm! There's a law protecting folks against dogs that bite!

AUNT EM: How would it be if she keeps him tied up? He's really gentle -- with gentle people, that is.

ガルチ婦人の台詞には仮定法現在のifが使われており、これから起きる可能性が高いこと示される。主節には意思未来のwillが使われている。「もしその犬を引き渡さなければ農場を取り上げることになる損害賠償訴訟を起こす」が訳になる。エムの台詞にも仮定法現在のifが使われており、これから起きる可能性が高いことが示される。主節には単純未来のwouldが使われている。エムはトト(雄犬)を弁護して「もし彼女が彼(トト)を縄で縛ったらどうなるかしら。彼は本当に優しくて・・・優しい人に対してのことだけど。」と言う。ここではエムは暗にガルチ婦人が優しくないので、トトがそれに相応しい対応をしたと皮肉を交えて言う。

1.2 案山子とドロシーの歌

ドロシーとトトが黄色いレンガの道を歩いていくと案山子に会う。ドロシーが案山子に話しかけると、案山子は自らの願いを話す。そして一行はオズの魔法使いに会うために共に旅をすることになる。

SCARECROW①: Do? Why, if I had a brain, I could --
I could while away the hours,
Conferrin' with the flowers,
Consultin' with the rain.
And my head I'd be scratchin'
While my thoughts were busy hatchin'
If I only had a brain.
I'd unravel every riddle
For any individ'le
In trouble or in pain.

DOROTHY: With the thoughts you'll be thinkin'
You could be another Lincoln
If you only had a brain.

SCARECROW②: Oh, I could tell you why
The ocean's near the shore
I could think of things I never thunk before,
And then I'd sit -- and think some more.
I would not be just a nuffin'
My head all full of stuffin'
My heart all full of pain.
I would dance and be merry...
 SCARECROW③: ...Life would be a ding-a-derry
If I only had a brain!

案山子①の台詞では仮定法過去が使われている。If節の中は過去形で、主節は助動詞couldの過去形が用いられる。1行目から8行目までの訳は次の通りである。「もし私に脳があれば、何時間でも花や雨と話し合ったりできるのに。そして思考が忙しく動いている間に私は頭を搔くことができるのに、もし私に脳があれば。全ての謎を解くこともできるだろう。」

ドロシーの台詞では前置詞Withを用いた仮定法現在がある。“With the thoughts”「もし思考力があれば」の主節は“you'll be thinkin”「あなたは考え続けるだろう。」そして“You could be another Lincoln / If you only had a brain.”「もしあなたに脳があれば、あなたはリンカーンのような人になれるだろう。」

案山子②の台詞では、前の連の続きとして仮定法過去の主節が助動詞couldやwouldを用いて表される。訳は次の通りである。「ああ、私はあなたに伝えることが出来るだろう / 海が浜辺に近いことの理由を / 私は以前に考えたことの無い物事について考えることが出来るだろう / そしてそれから私は座って・・・幾分もっと考えることが出来るだろう / 私は単につまらないものではなくなるだろう / 私の頭は全てがらくたで一杯ではなくなるだろう / 私の心は全て苦しみで一杯ではなくなるだろう / 私はダンスをして陽気になれるだろう」

案山子③の台詞では仮定法過去が使われている。If節の中は過去形で、主節は助動詞wouldが用いられる。「人生は素晴らしいものになるだろう / もし私に脳さえあれば」

1.3 放浪者達の歌

ドロシーと案山子と愛犬トトの一行は、それぞれの願いをかなえてもらうためにオズの魔法使いのところへ向かう。その道は、北の魔女が教えてくれた“the Yellow Brick Road”「黄色のレンガ道」である。道中で一行は次の歌を歌う。

FIDDLERS: ...Yellow Brick
Follow the Yellow Brick Road.

You're off to see the Wizard
The Wonderful Wizard of Oz
You'll find he is a whiz of a Wiz
If ever a Wiz there was.
If ever oh ever a Wiz there was
The Wizard of Oz
Is one because

Because, because, because, because,

because...

Because of the wonderful things he does....

“You'll find he is a whiz of a Wiz / If ever a Wiz there was.”では、If節は仮定法過去で主節は未来形である。仮定法過去は現在の事実と異なることを示すので、ここでは「もし魔法使いがいるならば（本当はいない）」という訳になる。主節は「彼が魔法使いの中の魔法使いであることを知ることになる」の訳になる。“If ever oh ever a Wiz there was / The Wizard of Oz / Is one because /.... / Because of the wonderful things he does....”でもIf節は仮定法過去である。「もし魔法使いがいるならば（本当はいない）」の訳になる。2つの“ever”が現在の事実と異なることを強め、魔法使いが本当はいないことを強めている。主節は「オズの魔法使いは唯1つの存在で、彼は素晴らしいことを行うので」という訳になる。素晴らしいこととは、放浪者達のそれぞれの願いを叶えてくれることである。

1.4 案山子とブリキの木こりの歌

ドロシー、トト、案山子の一行は旅の途中でブリキの木こりと出会う。そして話をしているうちに、ブリキの木こりは自分の悩みを話します。

TIN MAN①: When a man's an empty kettle,

He should be on his mettle.

And yet I'm torn apart.

Just because I'm presumin'

That I could be kind-a human, If I only had a heart.

TIN MAN②: I'd be tender -- I'd be gentle

And awful sentimental

Regarding Love and Art

I'd be friends with sparrows...

TIN MAN③: ...And the boy who shoots the arrows

If I only had a heart.

Picture me....a balcony....Above a voice sings low.

SNOW WHITE'S VOICE: Wherefore art thou, Romeo?

TIN MAN④: I hear a beat....how sweet!

Just to register emotion

Jealousy -- Devotion --

And really feel the part,

I could stay young and chipper,

And I'd lock it with a zipper,

If I only had a heart...!

ブリキの木こりの台詞①では、仮定法過去でIfに代わってWhenが用いられ、主節では助動詞shouldが用いられる。“When a man's an empty kettle, / He should be on his mettle.”「もし人が空っぽのやかんならば / 彼は自分の勇気を示す準備をするだろう。」その後で同様に仮定法過去が用いられる。“I could be kind-a human, / If I only had a heart.”「私は思いやりがあるようになれるだろう / もし私に心があれば」ブリキの木こりの台詞②では、台詞①の最終行のIf節を受けて始まっており、仮定法過去

の主節に助動詞wouldが用いられている。「私は優しくなれるだろう・・・私は親切になれるだろう / そして非常に感傷的になれるだろう / 愛と芸術に関して / 私はスズメと友達になれるだろう」

ブリキの木こりの台詞③では、同じく台詞②の最終行から繋がり、the boyは前行I'd be friends withの目的語になり、その後にIf節がくる。「そして矢を射る少年と（友達になれるだろう） / もし私に心さえがあれば」ブリキの木こりの台詞④では、最終3行で仮定法過去があり、If節があり主節でcouldが用いられる。「私は若く元気でいられるだろう / そして私はそれらをジッパーで閉めることが出来るだろう / もし私に心さえあれば」

1.5 ドロシーとライオンの台詞

ドロシー、トト、案山子、ブリキの木こりの一行は1頭のライオンと出会う。ライオンは初め案山子に攻撃的であり、ドロシーはライオンを嗜める。すると、ライオンは自らの悩みを打ち明ける。

DOROTHY: It's bad enough picking on a straw man, but when you go around picking on poor little dogs --

LION: Well, you didn't have to go and hit me, did you? Is my nose bleeding?

DOROTHY: Well, of course not. My goodness, what a fuss you're making. Well, naturally, when you go around picking on things weaker than you are -- Why, you're nothing but a great big coward!

2箇所の台詞で、ドロシーは一行に攻撃するライオンを戒める。仮定法現在でIfに代わってWhenが用いられている。各訳は「もしあなたが弱い小さな犬にけしかけ回れば」と「もしあなたがあなたより弱い生物にけしかけ回れば」である。

LION: Yeh, it's sad, believe me, Missy
When you're born to be a sissy,
Without the vim and verve.
But I could show my prowess --
Be a lion not a mou-ess --
If I only had the nerve
 I'm afraid there's no denyin'
 I'm just a dande-lion --
 A fate I don't deserve. I'd be brave as a blizzard ?

仮定法過去の2文がある。1つは接続詞Whenや前置詞withoutを用いた条件節では主節が現在形である。「うん。そのことは悲しい。私を信じてお嬢さん / もしあなたが生まれつき弱虫ならば / もし活力と情熱がなければ」もう一方では、If節に主節で助動詞couldを用いている。「しかし私は勇気を見せることができるだろう / ネズミではなくライオンでありえるだろう / もし私に勇気さえあれば」

ここまでで、If、When、Withoutを用いた仮定法は、事実とは異なる事柄、願望や後悔を表すことが出来ることを生徒は学ぶことが出来る。『オズの魔法使い』の台詞には仮定法が多く仮想の世界が提示されるが、次の節で示すように、この映画には当時のアメリカ社会が投影されているという作品の解釈の仕方も学生に伝えた。

2. 映画に投影された19世紀アメリカ社会

英語の授業は語学教育が主眼であることは言うまでもないが、授業で扱う教材、作品を生徒がより深く学ぶことにより授業への関心が劇的に高まる可能性がある。そのため、言語知識だけでなく、作品に関わる文学、文化、社会、歴史などの背景知識も授業で扱う価値はある。本授業は、映画作品で繰り広げられる想像世界を楽しめるだけでなく、原作品の創作背景としての現実世界との繋がりを持たせることで、生徒に物語をより身近に感じさせ、授業への関心を高めることを試みた。授業では2つの通説—アメリカとしてのオズ王国と、アメリカ大統領としてのオズの魔法使い—を高校生が理解できるように、パワーポイントで図や表を用いて出来る限り平易な言葉で紹介した。

1つ目の通説では、Ranjit S. Digheによると、映画作品に登場するオズ王国は19世紀後半のアメリカに類似する。オズ王国には東西南北の4つの地域があり、首都はエメラルドである。一方、アメリカは中西部、南部などに分割され、19世紀にこれらの地域は表現する色が違った。東部は工業地帯のブルーカラーから青、南部は赤土やレッドネックから赤、西部はカリフォルニア州のゴールドラッシュから黄色で表現された。そしてオズ王国の首都エメラルド（緑色）は、アメリカの首都ワシントンD.C.が紙幣の色の緑で表現されていることに似る（126）。

2つ目の通説では、Henry Littlefieldによると、オズの魔法使いは「Andrew JohnsonからWilliam McKinleyまで19世紀のアメリカ合衆国大統領」を暗示し、ことに「W. W. デンスローによる挿絵の魔法使いはBenjamin Harrisonにそっくりである」（24-25）。物語では、魔法使いの存在は偽りで、人々が偉大だと信じていたのは単なる「普通の男」であることが判明する。大きな顔の像を暗幕から操作していたのは、普通の年老いた男であった。これまでドロシー一行は、長い旅路を歩き、悪い魔法使いを退治し、各自に叶えてもらいたい願いを訴えて、魔法使いを信じ崇めてきたのだ。案山子は彼を詐欺師と呼び、彼は何の能力も持たず、ドロシー一行に出来ることはない。そのことは、まさしく19世紀の政治家たちと同様に約束（政約）を守ることができないことである。

最後に波乱万丈な長い夢から目覚めて、故郷カンザスに戻れたことが分かったドロシーが発言する“*There is no place like home.*”「家に勝る場所はない。」には、19世紀のアメリカという居場所の大切さを表している。辛いことや悲しいことを乗り越え、それでも受け入れてくれるのは、想像の世界や見知らぬ世界ではなく、現実のアメリカという国なのである。ドロシーは、養父母の家で養われ、意地悪なガルチ婦人との口論もあり、またカンザス州はアメリカの中でも竜巻が多く発生し、決して満足できる人的かつ自然の環境で生活している訳ではない。リトルフィールドの説のように、19世紀のアメリカ大統領はオズの魔法使いのように特別な力を持ち合わせないため、当時のアメリカ人の多くは、母国の現状に対して様々に不満があり苦勞が絶えない。しかし、他国に行くよりも、住み慣れた母国で暮らすことこそが一番安全で幸せなのだということを暗示しているように思われる。人々にアメリカへの愛国心を思い起こさせるような結末になっている。

3. アンケート調査

この授業を通して生徒の学習意欲を高めることが出来たかどうかを、以下の3つの質問が記された用紙を用いてアンケート調査を行った。

- A. 洋画への関心が高まりましたか？ はい ・ いいえ
- B. 英語を学ぶことへの意欲が湧きましたか？ はい ・ いいえ
- C. 今日の授業の感想を書いてください。

アンケート結果は以下のとおりである。

	A. はい	いいえ	B. はい	いいえ
2年生23人	19 (83%)	4 (17%)	21 (91%)	2 (9%)
3年生11人	10 (91%)	1 (9%)	8 (73%)	3 (27%)

C. は別添資料になるが、簡潔にまとめると次のようである。2年生の肯定的感想でIfの使い方が分かったという生徒は5人、映画がアメリカ社会を描いていることに触れた生徒は1人、原作が作者の人生であることに驚いた生徒は1人、小説を読んでみたいという生徒は3人、楽しく学習できたという生徒は2人いた。否定的感想では、英語が難しいと書いた生徒が2人いた。3年生の肯定的感想ではIfの使い方が分かったと書いた生徒が2人、楽しかったと書いた生徒が2人いた。否定的感想では英語が難しいという生徒が1人いた。

AとBのアンケート結果から、概ね洋画への関心が高まり英語学習への意欲が湧いた様子が見られる。目立った点としては、2年生と3年生で、「はい」と答えた生徒の割合がそれぞれAとBの割合において、次に示すように逆転していることである。2年生では質問Aが83%に対し質問Bが91%であり、洋画鑑賞への関心よりも英語学習への意欲が8%高まる。2年生の感想にあるように、英語を学ぶことでもっと映画を理解したいという気持ちが生徒に生じている。そのことは、英語文法の説明を映画の台本を用いて行ったことが1つの要因かもしれない。映画のストーリーが比較的易しく興味深い内容であることから、その映画台本を読むことで英語学習への関心が高まったのではないと思われる。娯楽の要素を含む本作品は英語教材としての効果が高いことが示されている。

3年生では、質問Aが91%に対し質問Bは73%であり、洋画鑑賞への関心は高いが、英語学習への意欲はそれよりも18%下がる。映画鑑賞と英語学習意欲との相互の関係性は薄いようである。2年生は英語力が伸びている段階であるが、3年生になると英語への得意不得意がはっきりしてきており、3年生は2年生ほどには洋画鑑賞への関心が学習意欲に繋がりにくいのかかもしれない。

どのような生徒が文法理解に効果があったのかについて、Cの感想アンケートから、仮定法Ifの使い方を知らなかった生徒4人、Ifを復習したかった生徒1人、Ifが理解できなかった生徒1人がいたことが分かる。彼ら全員が、この授業を受けてその使い方が分かったと述べている。

また映画に現れたアメリカ社会という社会的側面の学習では、Cの感想アンケートに「オズの魔法使いがアメリカをモチーフにしているのを初めて知りました。」とあり、物語の読み方を知るうえで生徒に学ぶきっかけを与えることが出来たと思う。本授業を受講することにより、洋画鑑賞や洋書を通して、生徒がこれから自らの力で発展的に英語学習をしていくことに繋がれば、長期的視点で本授業の効果があることになると思う。

おわりに

第3回授業では第1回、第2回の連続授業として映画『オズの魔法使い』の台本を用いて英語教育を行った。内容は仮定法の説明と映画に投影されたアメリカ社会である。文法理解を第1目標にしつつ、同時に映画の背景知識も生徒が学習できるよう心掛けた。1回の授業に45分間の時間的制約があり、映画を用いての仮定法の説明は、教員による講義形式を取らざるを得なかった。時間が有れば、教員と生徒との対話に基づく演習形式が可能であり、生徒は知識の確認として復習問題を解くことが出来たであろう。また小説作品の創作背景としてのアメリカ社会への理解は、予備知識のない高校生2、3年生には少し難しいように思われた。

アンケート結果では、大半が洋画への関心を高め、また英語学習への意欲を高めることが出来た

と思われる。しかし、2年生と3年生を比較すると、洋画への関心と英語学習への意欲は、常に関連性があるとは言えないことが分かった。そして、映画とその台本は、授業においてそれぞれ単独の使用でも十分に有用であると思われた。今後の課題として、生徒が、作品鑑賞を通して何を得られたのかを表現できる機会を設け、より文学作品解釈の楽しさを感じることの出来る授業を行っていききたい。

参考文献

- Baum, L. F. *The Wonderful World of Oz*. Penguin Books. 1998.
- Fleming, V. *The Wizard of Oz* [Film]. Warner Bros. Entertainment Inc. 2010.
- Dighe, Ranjit S. *The Historian's Wizard of Oz: Reading L. Frank Baum's Classic as a Political and Monetary Allegory*. Praeger. 2002.
- Littlefield, Henry M. "The Wizard of Allegory." *The Baum Bugle*, vol. 36 (1992), no. 1, pp24-25.
- Rudoff, P. *The Wizard of Oz -- Movie Script*. 1939. <[https://wvesmrsmith.weebly.com/uploads/2/4/2/0/24206076/the_wizard_of_oz_\(play\).pdf](https://wvesmrsmith.weebly.com/uploads/2/4/2/0/24206076/the_wizard_of_oz_(play).pdf)>
- 磐崎弘貞他12名.『映画英語教育のすすめ』、スクリーンプレイ、1995.
- カレイラ松崎順子.「学生の自律性を高める大学の英語の授業：映画『オズの魔法使い』の問題作成」、『映画英語教育研究紀要』第17号（2012）pp33-42.
- 川端壽.「『オズの魔法使い』と米国の通貨政策」、『亜細亜大学経済学紀要』第37号（2013）pp1-21.
- 木村恵子.「1939Film Version of *The Wizard of Oz*: A Girl's Initiation Trip」、『学習院女子大学紀要』第17号（2015）pp35-46.
- 角山照彦.『映画を教材とした英語教育に関する研究』、ふくろう出版、2008.
- 中谷安男・八尋春海.『映画英語教育論』、スクリーンプレイ、2003.
- 吉田久美.「ボームのおとぎ話にみる新しい子ども観—『オズの魔法使い』から—」、『帝京大学教育学部紀要』第6号（2018）pp97-104.

参考資料

C. 感想アンケート（原文のまま）

2年生の肯定的感想

- ・ Ifの使い方がわかった。
- ・ オズシリーズも何かの思想を描いていると思いました。
- ・ Ifなど復習できて良かった。とても分かりやすかったです。
- ・ ありがとうございます。
- ・ 作者がすごく裕福で新聞を作ったのはすごいと思いました。
- ・ オズはいい映画だと思いました。Ifがわかった。
- ・ オズシリーズを日本語のものから読んでみようと思います。
- ・ オズの魔法使いがアメリカをモチーフにしているのを初めて知りました。
- ・ 小説もいろいろ出されていると知ってたのものも読んでみたいなと思いました。
- ・ 内容が少しでも理解でき楽しかったです。少しずつ勉強していこうと思いました。
- ・ Ifという単語が本当にたくさん出てきて重要な単語なんだと思いました。英語の理解度がもっと高くなれば洋画も楽しめそうだなと思いました。
- ・ 楽しかったです。

- ・ 著者の人生が原作のもとになっているのはすごいと思った。
- ・ Ifの使い方がよくわかりました。

2年生の否定的感想

- ・ 少し難しかった。
- ・ 英語は難しい。
- ・ 長文が苦手なので難しかったです。
- ・ 歌っているところからIFを聞き取るのは出来なかったです。

3年生の肯定的感想

- ・ この映画のIfの使い方が少しわかりました。
- ・ とても楽しかったです。
- ・ 色々なIfの使い方が学べて面白かったです。
- ・ 別の作品も見たいと思いました。

3年生の否定的感想

- ・ 英語は難しいです。

受理日：2024年10月25日